

「Fukuoka Art Next」 今月のアート（1月）

福岡市は、彩りにあふれたアートのまちを目指して、暮らしのなかで身近にアートに触れる機会を増やし、アーティストの成長支援に取り組む「Fukuoka Art Next」を推進します。

市民がアートを身近に感じられるよう、福岡で活躍しているアーティストの作品を、月初めの定例会見において紹介します。

■ アーティストについて

われたメガネ峰太郎

1982年生まれ。太宰府市在住。多摩美術大学油画専攻卒業。近年は教育現場での経験をもとに制作を行い、教え子たちとの合作を多数発表している。2023年「Fukuoka Wall Art 賞2023」入賞、2025年「Fukuoka Wall Art 賞2025」入賞

しんかいの何か

2004年生まれ。福岡市在住。われたメガネ峰太郎氏の生徒。理想とするシチュエーションにおける理想的な女性像をドローイングで表現している。

■ 作品について



作家名 : われたメガネ峰太郎×しんかいの何か

作品名 : They were made up of hundreds and hundreds of pure, shining crystals, like fragments of glass or spun sugar. (それらは何百何千もの純粋で輝く結晶でできており、まるでガラスの破片や綿菓子のようなです。)

制作年 : 2025年

材質技法 : 油彩、アクリル、スプレー、紙・アクリル板

サイズ : 51.5×72.8 (cm)

このアーティストは学校時代の先生と教え子のユニットです。

画面中央の女性像のほか、展覧会の案内状、授業で使用した材料など、色々なものが画面を埋め尽くしています。

二人は、学校での時間の経過や人の痕跡を感じさせる材料やモチーフ、様々な材質の素材を選んでいきます。加えて、コントラストの強い色を用いることで、「希望」だけでなく「不安」や「絶望」など複数の感情が同時に存在する学校という場を表現しています。

【お問い合わせ先】

経済観光文化局美術館学芸課 担当：花田、ラワンチャイクン

TEL：714-6054 FAX：714-6145 E-mail：hanada.m19@city.fukuoka.lg.jp